

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/4)

学部・学科	臨床心理学部・臨床心理学科	職名	専任研究員	氏名	センショウ カヨ 千秋 佳世
学歴	平成15年 3月 京都大学教育学部 卒業 平成18年 3月 京都大学大学院教育学研究科 修了 平成22年 3月 京都大学大学院教育学研究科博士後期課程 単位取得満期退学				
学位	平成18年 3月 教育学修士 (京都大学)				
専門分野	臨床心理学				
専門資格	平成19年 4月 臨床心理士 (17524号)				
所属学会	平成16年11月 日本心理臨床学会 平成22年 9月 日本箱庭療法学会				
受賞					
担当授業科目	大学院 心理臨床査定特演 -A・ -B、臨床心理査定特演 -A・ -B、臨床心理面接特論A・B、臨床心理学外実習 -A・ -B、臨床心理学内実習 -A・ -B、臨床心理学外実習 -A、 -B、臨床心理学内実習 -A・ -B				
論文指導	論文指導担当[主査] (卒論：該当なし) 論文審査担当[副査] (卒論：該当なし)				
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数	
	臨床心理面接特論A	講義・演習・実習・実験	春・秋	約10名	
	授業の概要： 心理臨床面接を行うための基本的態度、および基礎的技法を学習する。				
	教育活動の振り返り 教育活動の成果： 履修者同士による心理臨床面接のロールプレイを授業の中心とし、履修者はセラピスト役とクライアント役の両方を必ず体験することで、両方の視点に立った体験的な学びが可能となるようにした。ロールプレイは録音と逐語記録で全員が共有し、それに基づいたディスカッションと実践的指導を行った。 今後の課題： ディスカッションの時間をより充実できるような時間配分を考える。また、履修者自身が授業内で皆と共有したいテーマを積極的に挙げていけるような授業構成を検討する。				
科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数		
臨床心理学外実習1-A	講義・演習・実習・実験	春・秋	29名		
授業の概要： 臨床実践の現場で体験的に学びを蓄積し、心理臨床家としての基礎を身につけることを目標とする。修士1年次は、幼稚園と小学校を中心とした、教育関連機関での実習となる。週に一日、実習先を訪問し、実習担当の教職員の指導のもと、教育現場の実践に参与する。					
教育活動の振り返り 教育活動の成果： 学生自身の興味・関心の聞き取りを行った上で実習先のコーディネートを行った。実習受け入れ機関には学生を同伴して実習依頼を行い、受け入れ先担当者との連携をとることで、実習状況を把握すると同時により良い実習体験となるよう改善に努めた。実習後に毎回記入する「実習記録」を導入し、学生自身の主体的な実習体験の振り返りを促すとともに、実習先担当者にも目を通してもらうことで、実習状況の共有と改善がスムーズに行われるようにした。実習前後や実習期間中にガイダンスや特別講義を行い、実践的な指導を行った。毎回の実習記録や定期的な実習報告書に目を通し、学生の体験を言葉にする力が身に付くよう指導した。					

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/4)

<p style="text-align: center;">F D 活 動 ・ 教 育 実 績</p>	<p>(臨床心理学外実習1-A つづき)</p> <p>2 今後の課題： 実習状況をより正確に把握し、適切な指導がスムーズに行える体制を更に検討する。また、学生自身によって実習の目的や見通しを立てていけるよう、指導を工夫する。</p> <p>・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 特になし。</p> <p>・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院生の実習やスーパーヴィジョン、臨床事例担当に伴う個別の相談に随時応じた。 ・大学院生の進路や研究活動について指導を行った。 ・学外実習先情報交換会、スーパーヴィジョン情報交換会を運営した。 ・大学院事例検討会を運営し、在学中の大学院生が修了生による現場実践報告を聞く機会を設け、修了後の心理臨床のイメージを豊かに描けるよう促した。
<p>H26 年度 研究課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自我体験に関する研究 2. “ノスタルジー”という感覚についての臨床心理学的検討 3. 身体疾患に対する心理臨床的アプローチの研究
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">平成 二 十 六 (2014) 年 度 の 研 究 活 動 の 概 要</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自我体験の病的側面について、特に離人感との関連からまとめた論文「自我体験と離人感の関連に関する研究」が心理臨床学研究第32巻第1号に採択された。後述:(論文)1 2. 研究会における検討や文献研究を継続すると共に、臨床実践からの考察や過去の自験例の見直しと分析を行った。 3. 平成21-24年度科学研究費補助金(基礎研究B・一般)「身体疾患に関する心理臨床的アプローチの基礎研究」後述:(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)における調査データについて継続して分析を行い、結果の一部を「一般成人における「病の体験」の実態調査 年代・性別による特徴」,「一般成人の「病の体験」に関する基礎的研究 自由記述を通してみる「病の体験」」の2本の論文にまとめ、京都文教大学臨床心理学部研究報告第7集に採択された。後述:(論文)1, 2
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">平成 二 十 六 (2014) 年 度 の 主 な 研 究 成 果 等</p>	<p>(著書)</p> <p>(論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「自我体験と離人感の関連に関する研究」、共著、平成26年4月、日本心理臨床学会 心理臨床学研究第32巻第1号 (pp.72-84) 2. 「一般成人における「病の体験」の実態調査 第一報：年代・性別による特徴についての調査報告」(研究ノート)、共著、平成27年3月、京都文教大学 臨床心理学部研究報告第7集 (pp.57-70) 3. 「一般成人の「病の体験」に関する基礎的研究 自由記述を通してみる「病の体験」」、共著、平成27年3月、京都文教大学 臨床心理学部研究報告第7集 (pp.31-42) 4. 「救済についての一考察 アニメ『少女革命ウテナ』に見る救済観」、共著、平成27年3月、京都文教大学心理臨床センター 臨床心理研究第17号 (pp.57-62) <p>(学会報告、学会活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「自験例：発達障害の診断をきっかけに来談した5歳男児とのプレイセラピー」(事例提供者)、平成26年8月、京都文教大学臨床心理学研究科国際交流事業研修会(韓国箱庭療法学会共催)、韓国ソウル市立児童心理治療センター <p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>報告：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「2014年 京都文教大学心理臨床センター活動報告」、共著、平成27年3月、京都文教大学心理臨床センター 臨床心理研究第17号 (pp.63-70) <p>(調査活動)</p> <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等)</p> <p>(学内活動)</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/4)

平成二十六年(2014)年度の 社会における活動	(自治体や企業における研修等の講師) 平成26年10月 宇治市不登校問題対策委員会主催「平成26年度第2回事例研究セミナー」講師、於： 宇治市青少年指導センター (その他) ・ 成安造形大学 学生相談室 臨床心理士「平22.4より」
平成二十一年(2009)～二十五(2013)年度の 主な研究成果等	(著書) 1. 「自我体験と身体」、共著、平成21年9月、創元社、伊藤良子・大山泰宏・角野善宏編、京大心理臨床シリーズ9 心理臨床関係における身体 (pp.174-180) (論文) 1. 「風景構成法における彩色についての研究」、共著、平成22年3月、大学院教育改革支援プログラム「臨床の知を創出する質的に高度な人材養成」(研究代表者：京都大学大学院・教育学研究科心理臨床学講座・教授 桑原知子) 研究開発コロキウム平成21年度研究成果報告書 (pp.55-72) 2. 「心理臨床における箱庭を介したかわわりに関する研究 特別養護老人ホームでの調査から」、共著、平成22年3月、大学院教育改革支援プログラム「臨床の知を創出する質的に高度な人材養成」(研究代表者：京都大学大学院・教育学研究科心理臨床学講座・教授 桑原知子) 研究開発コロキウム平成21年度研究成果報告書 (pp.112-126) 3. 院生主体「学術的発信能力育成のためのプロジェクト」(学会発表報告書) 単著、平成22年3月、大学院教育改革支援プログラム「臨床の知を創出する質的に高度な人材養成」(研究代表者：京都大学大学院・教育学研究科心理臨床学講座・教授 桑原知子) 京大型臨床の知創出プログラム 平成19-21年度アウトリーチ報告書 (pp.56-59, 98-102) 4. 「PAC分析を応用した自我体験の語りに関する一考察」、単著、平成22年10月、日本心理臨床学会心理臨床学研究第28巻第4号 (pp.434-444) 5. 「特別養護老人ホームに箱庭を持ち込む試み 「鮮やかさ」という視点の生成」、共著、平成23年8月、共著者：大石真吾・高橋優佳・森崎志麻・浅田恵美子・井芹聖文・加藤奈奈子、日本心理臨床学会 心理臨床学研究第29巻第3号 (pp.317-328) 6. 「風景構成法における彩色過程の基礎的研究 彩色指標作成の試み」、共著、平成24年7月、共著者：松井華子・古川裕之、日本箱庭療法学会 箱庭療法学研究第25巻1号 (pp.103-110) (学会報告、学会活動) 1. “Nostalgia” in psychotherapy.(口頭発表) 単独、平成21年7月、The 2nd International Conference of the International Association of Jungian Studies, Cardiff University (ウェールズ) 2. 「箱庭の持つ「鮮やかさ」に関する試論 特別養護老人ホームでの調査から」(口頭発表)、共同、平成21年9月、日本心理臨床学会第28回大会、東京国際フォーラム 3. 「風景構成法における彩色についての研究」(口頭発表)、共同、平成21年9月、日本心理臨床学会第28回秋季大会、東京国際フォーラム 4. 「「めぐる」ことに関する体験的研究(1) 波照間島フィールドワークから」(ポスター発表) 共同、平成21年9月、日本心理臨床学会第28回大会、東京国際フォーラム 5. 「「めぐる」ことに関する体験的研究(2) 波照間島フィールドワークから」(ポスター発表) 共同、平成21年9月、日本心理臨床学会第28回大会、東京国際フォーラム 6. 「高齢者が体験する箱庭世界 老人ホームに箱庭を持ち込む試みを通して」(口頭発表) 共同、平成23年10月、共同発表者：高橋優佳・浅田恵美子・井芹聖文・大石真吾・西浦太郎・長谷川藍・森崎志麻、日本箱庭療法学会第25回大会、東京国際フォーラム (その他、エッセイ・翻訳・学術講演等) 報告： 1. 「2011年京都文教大学心理臨床センター活動報告」、共著、平成24年3月、京都文教大学心理臨床センター 臨床心理研究第14号 (pp.101-105)

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (4/4)

<p>平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等</p>	<p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等 つづき)</p> <p>2. 「2012年京都文教大学心理臨床センター活動報告」、共著、平成25年3月、京都文教大学心理臨床センター 臨床心理研究第15号 (pp.63-69)</p> <p>3. 「2013年京都文教大学心理臨床センター活動報告」、共著、平成26年3月、京都文教大学心理臨床センター 臨床心理研究第16号 (pp.131-137)</p>
	<p>(調査活動)</p> <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>平成19年度-平成21年度 大学院教育改革支援プログラム「臨床の知を創出する質的に高度な人材養成」(研究代表者：京都大学大学院・教育学研究科心理臨床学講座・教授 桑原知子) 京都大学大学院教育学研究科所属の院生としてプログラムに関わる。</p> <p>平成21年度-平成24年度 科学研究費補助金 (基礎研究B・一般) 「身体疾患に関する心理臨床的アプローチの基礎研究」 (課題番号21330163, 研究代表者：京都文教大学・臨床心理学部・教授 濱野清志) における調査活動と研究会参加。</p>
	<p>(学内活動)</p> <p>平成19年 4月 1. 追手門学院大学 地域支援心理研究センター附属心のクリニック 相談員 「平22.3まで」</p> <p>2. 佛教大学 教育学部臨床心理学科 非常勤講師「平22.3まで」</p> <p>3. 宇多野病院 臨床心理士「平23.3まで」</p> <p>平成21年 4月 1. 日本箱庭療法学会 事務局員「平22.3まで」</p> <p>2. 京都嵯峨芸術大学 学生相談室 臨床心理士「平23.3まで」</p> <p>平成22年 4月 成安造形大学 学生相談室 臨床心理士「現在に至る」</p>

平成二十一～二十五
(2013)
年度の社会における活動